

## 編集後記

当会の会誌編集規則が2016年8月に開催された役員会で制定され、かつ編集委員4名も任命されました。その後、重川一郎編集委員長のもと、正式な同窓会誌の最初の編集が進められ、ほぼ予定時期の発行を見通せる段階に至ったことは、編集委員一同の喜びであります。

昨年11月19日開催の同窓会行事の報告・記録は、本誌がまず収録しなければならぬ事柄であります。ご承知のように、この行事における講演会を広中平祐氏が引き受けてくださり、当日広中氏は「数学者の素願から終活まで」なるタイトルで、一時間半に亘り情熱を込めて語ってくださいました。今回、この講演記録を収録できたことは、本誌創刊に際しての何よりの記念であります。ご多用の中、講演においで下さったばかりでなく、録音を起こしたものに丁寧に手を入れ、また写真等を付け加えて下さって、講演記録を仕上げてくださいました。これらのご労苦に改めて心からお礼を申し上げます。

三木良一氏と松本和一郎氏の準備号、設立記念号と続いてきた連載記事「私の学生時代」の第3回目を載せることが出来たのも感謝であります。太平洋戦争敗戦による日本国組織の根本的変革の時代と、それから約20年後の日本が抱えていた問題の顕在化としての大学紛争の時代を、お二人が夫々に数学教室の学生として生きた夫々の記事は、数学教室の歴史としてのみならず、日本の歴史の一つの記録として貴重な価値を持つと思います。三木氏の海賊版を巡る話は、海賊版を利用させてもらった世代の私にはとても興味深いものであります。

今回は、退職した方や新たに就任した方にも執筆をお願いし、さらに卒業生・修了生の方々にも記事を書いていただきました。編集部からの強引なお願いに応じてくださったことここに感謝申し上げます。なお、懇親会でスピーチ下さった森住弘氏（昭和29年卒）は執筆をお引き受けくださっていましたが、その後に受けた手術後の回復が十分でないため今回は見送りとなりました。速やかな回復を祈ります。

京大数学同窓会会誌がかく出発できた訳ではありますが、これから会自体とともに段々と育てていかねばなりません。編集規則に加えて、編集の具体的基準や内容なども順次整備する必要があります。しかし、会員の皆様からの寄稿は勿論のこと、お知恵や助言などをお寄せくださることが会誌成長の不可欠の養分であります。皆様のご協力をお願いいたします。 (副編集長 井川 満)